

実践事例

(環境) 福岡中学校 1年

人間と自然との共生

6月～10月(12時間)

1 ねらい

福岡学区は比較的自然に恵まれた地域であり、学校の周りには田畑が広がっている。生徒たちは、小学校での学習で砂川の調査を行ったり、学区のグリーンマップを作成したりと、身の回りの自然環境について学習してきた。しかし、そんな自然は今、少しずつ変わってきている。生徒たちが、学区の絶滅危惧種や在来種・外来種を取り上げ、実地調査をしたり、パソコンを使って調べたりしながら考えていく中で、もっと自分たちの地域に関心を持ち、地域の環境に目を向け、人間と自然の共生について考えさせたい。

2 実践の概要

(1) 単元計画

学 習 課 題	学 習 内 容	時間
様々な絶滅危惧種を知ろう	・絶滅危惧種クイズ、レッドリストランク調べ	1
在来種、外来種を知ろう	・在来種と外来種の違い、外来種の生態系への影響	1
絶滅危惧種について追究しよう	・1人1種類の絶滅危惧種について追究	2
身の回りの外来種、在来種を調べ、バイオリージョンマップをつくらう	・在来種のおオバコ、外来種のアメジソンの生態調査 ・調査結果を自分の家の周りの地図に書き込み ・バイオリージョンマップの作成	2
在来種を減らさない方法を考えよう	・在来種を減らさない方法 ・グループ討議、発表	2
未来まで、自然と人間が共生していくために私たちにできること	・福岡がこれからも人と自然が共生していくための活動 ・活動内容の実行	4

(2) 絶滅危惧種、在来種・外来種を知る～出会い～

身近にいる生物を中心に、絶滅危惧種クイズを行った。写真と名前をもとに、その生物が絶滅危惧種に指定されているかどうかを当てた。多くが生徒たちも知っている名前の生物であり、興味をもって取り組むことができた。さらに「レッドリスト」という言葉に触れ、レッドリストランクがあることを伝えた。身近なニホンメダカやトノサマガエルが絶滅危惧種になっていたり、たんぽぽの多くが外来種であったりすることに驚いていた。

(3) 調査する～情報の整理・収集～

福岡学区に生息する絶滅危惧種は、多くはなかったのでパソコンを使って、どんな絶滅危惧種がいるのか調べた。さらに、興味をもった一種類の動物について、絶滅危惧種になってしまった理由や、生態について詳しく追究した。



(4) バイオリージョンマップの作成～生徒が体験を通じて課題を見つける～

福岡学区の在来種・外来種の調査を行った。すべてを調査することはできないので、在来種代表「オオバコ」、外来種代表「ヒメジョオン」を調査対象として調べた。

学区を自分たち自身で調べたことが全体の形になったバイオリージョンマップ見た瞬間「うわっ、赤が多いっ!」「ヒメジョオン多い。やばい。」と声が挙がり、このままでは在来種がなくなってしまう、「在来種を残していきたい」という声があがった。

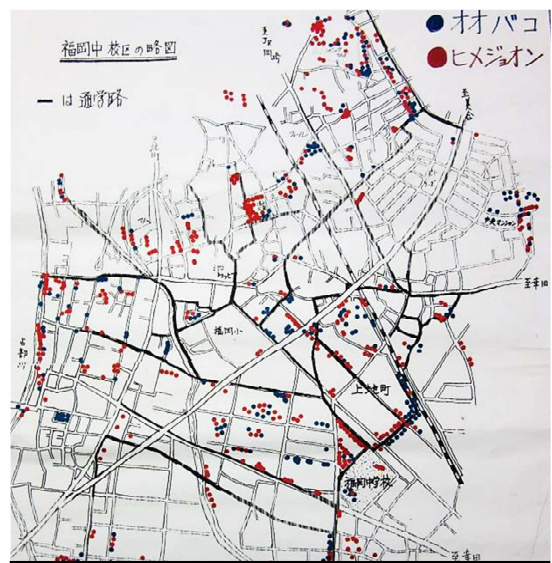
(5) 話し合い～在来種を減らさないために～

「在来種を減らさないために」という課題について、4人グループで話し合いを行った。思考ツールをメモ代わりにして、自分の考えをまとめた後に話し合うことで、活発な話し合いとなった。その後、全体での意見交流では、よりよい方法について話し合った。

「在来種を育てる」という意見と、在来種を、「抜く」「燃やす」「刈る」「食べる」「活用する」「ネットで種子をカバーする」と両側に分かれた。さらに、それぞれのメリット・デメリットについて考えながら話し合った。なかなか1つにはまとまらなかったが、話し合いの終わりのほうになると、意見は「外来種を抜く」という意見に傾いていった。

そこで、教師から「ヒメジョオンの種子は47万個ある」「その種子は35年生き続ける」という情報を伝え、生徒を揺さぶった。しかし、育てることが難しいこと、現実的ではないことから「外来種を燃やす」「外来種を抜く」という形で収束していった。

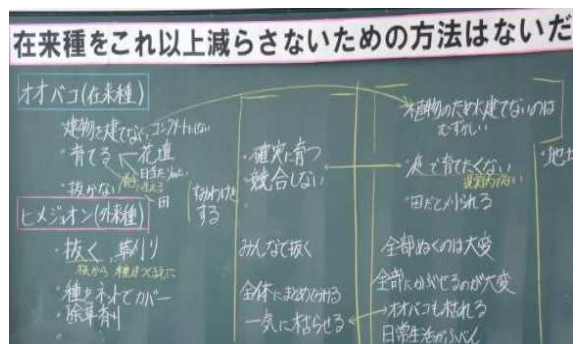
そして最終的に「一人ひとりの力は小さいけれど、地域の人に協力してもらったりして、効率よくやっていけば、少しずつだけ繁殖を止めることができると思います。」という、意見でまとめ、それを呼びかけていくことになった。



【資料①】 バイオリージョンマップ



【資料②】 グループで話し合う様子



【資料③】 話し合った結果の板書

3 実践を振り返って

実際に自分の学区を歩いて調査をしたことで、自分たちの地域を知ることができた。また、在来種・外来種への関心を高め、積極的に考え、話し合うことができた。しかし、調査対象を植物にしたことで、生徒たちにとって切実感が小さかったことが反省点である。今後も、もっと自分の学区や身の回りの環境に関心をもつとともに、自然と共生していくために自分たちにできることを考え、話し合い、行動できる生徒を育てていきたい。